2025年11月15日号（通巻131号）

NITTOSEIKO 日東精工 ニュースレター

京都府綾部市井倉町梅ヶ畑20番地／日東精工株式会社経営企画室発行

「受験生応援ねじプレゼントキャンペーン」を本年度も12月から開始いたします。

当社の樹脂用ゆるみ止めねじ「ギザタイト」を特別仕様に加工してプレゼント。受け取った方が気持ちをゆるめず集中力を持続させて、本来の実力を十二分に発揮してもらえるよう願いを込めてお贈りするキャンペーンです。

当社の樹脂用ゆるみ止めねじ「ギザタイト」を特別仕様に加工してプレゼント。受け取った方が気持ちをゆるめず集中力を持続させて、本来の実力を十二分に発揮してもらえるよう願いを込めてお贈りするキャンペーンです。

受験生本人からの応募はもちろん、両親からお子さんへ、遠く離れて暮らすお孫さんへ、先生から生徒さんへ、資格取得を目指す友人へ、さらには受験だけでなく仕事でくじけそうになった自分自身への励ましのためになど、動機はさまざまですが、昨年度は、総数5,866個、1,083件の応募がありました。

「兄と姉がこのねじのおかげで合格したので自分にもお願いします」「中学、高校に続いて今度は大学受験です」といったリピーターもあり、また毎年、クラスや学校単位での応募もあります。2014年にこのキャンペーンを開始してから、これまで延べ7万人以上の方にプレゼントしてきました。

日東精工はB to B（企業間取引）を主とするメーカで、いわゆるエンドユーザ―の声を直接聞く機会が少ないのですが、このキャンペーンを通して一般の方に当社のことを知ってもらうことができ、直接つながれること、「ねじ」をより身近に感じていただけることに喜びを感じています。

たとえば、本年1月に京都府立中丹支援学校へ受験生応援ねじを贈呈したことがきっかけで交流が生まれ、当社と同校の作業学習に関する連携もはじまっています。具体的には、中丹支援学校の学生さんが製作したコースターを当社で使用し、その感想や改善点をフィードバックしています。

そして、このねじプレゼントキャンペーンや、そこから広がるさまざまな交流を、多くのメディアに取り上げていただくことは、当社のブランド価値向上にもつながっています。ねじは、モノとモノをつなぐもの。ねじによってモノがつくられ、モノを介して人と人はつながります。日東精工がつくる「ねじ」は、心と心を締結する、そんな想いをこれからも大切にしてまいります。

●ゆるみにくい	＝	集中力持続
●五角頭	＝	ご(う)かく
●アルミ(素材)	＝	軽い。重く考え過ぎず、リラックスして実力を発揮
●金色加工	＝	美しい輝き、めでたい、成功
●黄色(専用袋)	＝	明るい、活発、幸運、成功
●桜・七宝文様(台紙)	＝	開花、円満、調和、ご縁、縁起が良い
●AR機能	＝	ねじっとくんが受験生を応援
●ねじクイズ	＝	ねじに関するクイズで息抜きしてね！

自動車分野など工業用に幅広く使われている当社樹脂用ゆるみ止めねじ「ギザタイト」を、ねじ頭を五角形（＝合格）にし「成就」の文字を刻印するなど、ポジティブな意味をたくさん込めた仕様になっています。専用台紙も用意。台紙にはＡＲ機能を加え、スマートフォンの専用アプリで読み込むと、応援メッセージを受け取ったり、「ねじクイズ」にチャレンジできるようになっています

本年度のキャンペーンも例年通り、12月、1月、2月と3回に分けて応募を受け付け。第1回は12月1日から受付開始で、その当日から応募フォームを開設します

「人を大切にする経営学会」で日東精工の取り組みをアピールしました

先般、「人を大切にする経営学会」の第12回全国大会が慶応義塾大学三田キャンパスで開催され、当社代表取締役社長兼COOの荒賀誠が「理念の体現を通じて目指す日東精工の『地方創生』」というテーマでお話をさせていただきました。

当社代表取締役社長荒賀誠

「人を大切にする経営学会」は、厳しいビジネス環境のもと、好不況の波があっても高い業績を持続している企業に着目し、「結局は、人をとことん大切にしている企業こそが、好不況にぶれず好業績である」という研究を深化・体系化させることを目的に2014年に設立されたものです。東京都の千代田区に本部を置き、全国に9つの支部をもつ大規模な学会であり、人を大切にする企業経営の普及も行っています。従来の「3方良し」（売り手良し・買い手良し・世間良し）という考えに代わる「5方良し」を提唱。会社が幸せを追求するべき対象として（1)社員とその家族（2)社外社員とその家族（3)現在顧客と未来顧客（4)地域住民とりわけ障がい者等社会的弱者（5)株主・支援機関を挙げています。

そして「日本でいちばん大切にしたい会社大賞」を設け、人を大事にしている企業を毎年顕彰しています。この大賞の受賞資格（応募資格）は過去5年にわたって、以下の6項目を満たす必要があります。

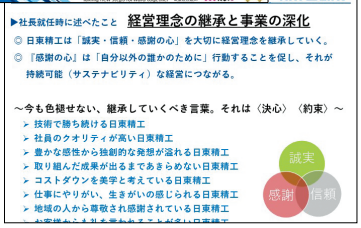
1. 希望退職者の募集や人員整理(リストラ)をしていない
2. 重大（死亡や重傷）な労働災害を発生させていない
3. 一方的なコストダウン等理不尽な取引きを強要していない
4. 障がい者の雇用率は法定雇用率以上である
5. 営業黒字で納税責任を果たしている（自然災害や為替レート等の大幅な変動等による赤字等を除く）
6. 下請代金支払遅延等防止法等の法令違反がない

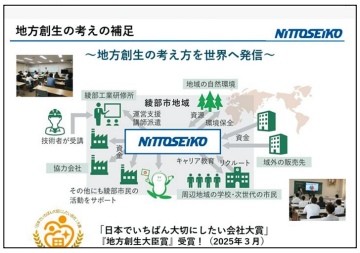
以上のすべてに該当する必要がありますが、日東精工は今年3月に第15回「日本でいちばん大切にしたい会社大賞」の「地方創生大臣賞」を受賞しています。

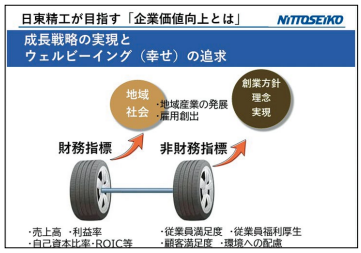
当社が「地域の産業振興と雇用創出」を目的に設立された稀有な会社であり、設立以来80年以上、企業価値創出には「人的資本経営」が重要であるという考えのもと、個人の成長と組織の成長がつながる仕組みを構築してきたことが評価されたものです。

8月26日、慶義塾応大学三田キャンパスで開催された「人を大切にする経営学会」の全国大会には、学会員（学者、学生、企業経営者、弁護士や司法書士など）約400名が参加しました。そのなかで、本年度の受賞者として、当社代表取締役社長兼COOの荒賀誠が「理念の体現を通じて目指す日東精工の『地方創生』」というテーマで講演しました。

当社は厚生労働省や経済産業省などをはじめ各種公的機関からさまざまな表彰を受けておりこれらを励みに現状に満足することなく、「日本でいちばん大切にしたい会社大賞」のさらなる高み「内閣総理大臣賞」をいただけるよう精進してまいります。







「社長名鑑」で当社理念や事業内容や人財育成を紹介

当社代表取締役社長荒賀誠が「社長名鑑」の取材を受け、その内容が現在Web上で公開されています。今回のインタビューで荒賀は「シンク・グローバル、アクト・ローカル」（地域に根ざした活動を大切にしつつ、グローバルな視点をもち世界に貢献できる企業を目指す）が大切であると語っています。

そして当社の経営理念が「誠実・信頼・感謝の心」であること、「立場が上になればなるほど謙虚でいなさい」という言葉を大切にしていること、社長就任時にいちばん大切にしたいものとして「経営理念の継承と事業の深化」を掲げたことなどが紹介されています。

「社長名鑑」は上場企業を中心に1500社以上の社長のインタビュー記事や動画、ビジネスに役立つ特集記事などをWebで公開

地域イベントに積極的に参画しています

9月23日にあやべ・日東精工アリーナにて綾部商工会議所青年部主催で「YEGフェス」が開催され、「まなぶ・つながる・たのしむ地域の未来」をテーマとしたなかで、当社では「まなぶ」の取り組みである「子どもお仕事体験」に出展し、「ねじ締めドライバのプログラム体験」を提供しました。また10月5日には「第35回あやべ産業まつり」が綾部市内数か所で開催され、当社では昨年同様「綾部工業団地ふれあいフェスタ」へ出展しました。

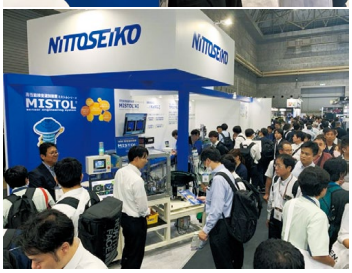
当社ではこういった地域イベントを大切なものと考え積極的に参加し、若い世代、これからの世代に向けて、ねじの大切さ、モノづくりのおもしろさ、奥深さなどを伝えてまいります。

「計測・検査・センサ展」で異種金属接合技術「AKROSE」もアピール

日東精工グループでは国内外の各種展示会を積極的に活用し、当社グループの技術力の高さや製品ラインナップの豊富さをアピール。そして既存のお客様との関係を深耕するとともに、新しいお客様との出会い・新規開拓につなげています。

10月1日から3日までインテックス大阪で「第28回ものづくりワールド大阪『第6回計測・検査・センサ展』が開催され、当社も出展しました。

当社のブースでは、①超低推力でのねじ締めを可能とする単軸自動ねじ締め機「FM513VZR」、②高精度なねじ締め作業を可能とする協働ロボット搭載タイプの自動ねじ締め機「FM514CZ」、③トルクを計測してタップ成形の異常を検知する「めねじ検査装置卓上ロボット「SR395DT」、④小物部品を人工知能（AI）で画像解析して寸法・キズの有無などを検査する部品検査選別装置「ミストルAI」、⑤加工・組立の際に発生する振動を監視し、破損の発生と同時に異常を検知する振動検査装置「キズミルⅡ」など、生産現場のあらゆる課題解決に貢献する製品を展示しました。



さらに当社の異種金属接合技術「AKROSE（アクローズ）」もアピール。アクローズ技術を駆使したはんだごて先を展示し、耐久性アップを訴求。このメリットを実感していただくために、こて先のフィールドテスト企業を募集しました。

【誠の言霊（ことば）㉛】

All for one

代表取締役社長　荒賀　誠

二刀流を復活させた大谷翔平選手。ワールドシリーズでも投打で大活躍し、今年は、3年連続のMVPが期待されています。

大谷選手は以前、ドジャースに移籍した直後、チームについて、「超一流の選手がそろっていて『戦力差』に目がいきがちだが、実際チームのなかに入ってみると、それだけでないことがわかった。勝ち続けるチームは、選手一人ひとりが自分のことだけでなく、チームにとって何ができるかを常に考え続けている。勝ちにこだわるから負けたときは悔しいし、その悔しい想いを次に原動力に変えられる」と語っていました。「One for all, All for one」。チームスポーツでよく耳にする言葉です。「一人はみんなのために、みんなはひとりのために」と誤解されることも多いようですが、正しくは「みんなは一つの目的のために」です。一人ひとりが技術を高めていく、それは自分自身のためでなくチームのためです。ベクトルを合わせること、しっかり目的を共有することで、個人もチームも互いに高め合うことができるということでもあります。仏教の「円融無礙※」にも通じます。

これはスポーツだけでなく、会社などでも同じでしょう。会社をよくしたいという想いをもって皆が力合わせていくことが、結局は個人にとってもプラスになっていくのです。

※「円融無礙（えんゆうむげ）」個性や多様性を認めつつ、それらがお互いに調和し一つの目的に向かって妨げられることなく溶け合う状態

「幸せ」を見つけるヒント ―― 11月

市民駅伝応援で「つながる大切さ」を実感

数多あるトレイルランの大会のなかで、一昨年にはじまったばかりの「あやべ水源の里トレイルラン」が全国で第1位の高い評価を得ていることは、このニュースレターでもすでにご紹介しています。これはあやべの自然の魅力やあやべ人のホスピタリティの高さによるところが大きいよう。それに加え、あやべには「綾部市民駅伝」「二王門登山レース」「あやべ里山サイクリング」といった何十回と回を重ねるスポーツイベントがあり、これらの経験の積み重ねもベースになっているのでしょう。「綾部市民駅伝」は小学生の部から、中学生、高校生、そして一般部門、シニア部門まであり、さまざまな年代の方が参加し、たすきをつなげていきます。

日東精工ではボランティアスタッフが大会をサポートするほか、複数のチームをつくって参加し〈つなげる大切さ〉をアピール。ときには当社マスコットキャラクターねじっとくんも伴走!?

今年、第41回大会は綾部市制75周年を記念し11月30日に開催。見て応援するだけでも「One for all, All for one」が伝わって、ワクワク、気持ちが高まっていきますね。

日東精工代表取締役会長
綾部商工会議所会頭　材木正己

発行：日東精工株式会社経営戦略本部経営企画室
当社ホームページでは本ニュースレターのバックナンバーほか、事業や新製品のより詳しい情報を閲読いただけます